

都市再生整備計画事業 事後評価シート
宮守まちなか再生地区

令和2年9月

岩手県遠野市

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	道の駅みやもりの売上額	百万円	47	H25			44			道の駅みやもりの売上額は近年下落傾向であり、事業を実施しなかった場合はさらに下落することが予想され、事業を実施しなかった場合の推計値は平成31年度(令和元年度)で30.4百万円/年と予想される。 そうした中、評価年度の平成31年度(令和元年度)の確定値は44.0百万円/年であり、当該事業の実施が下落傾向を是正し、地域経済を回復することにつながったと考えられ、一定の事業効果はあったものと考察できる。	
	その他の 数値指標2											
4) 定性的な効果 発現状況	銀河ステーションSLプラザの整備、めがねはしライトアップ照明整備等により、地域住民や事業者のまちづくりへの意識が高まり、主体的かつ継続的なイベントが実施されている。											
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—				
	住民参加 プロセス	市民団体「めがね橋周辺環境整備検討会」との意見交換		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 今後市民の意向を取り入れたまちづくり・施設活用を継続的に実施する。				
	持続的なまちづくり 体制の構築	○事業終了後の継続的なまちづくり まちづくりは終わりのない市民運動そのものであることから、 関係機関のみならず地域住民、市外の遠野ファンを巻き込み、 PDCAの検証を常に意識しながら目標達成に取組む。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 地域住民や事業者の主体的なまちづくり活動等の後方支援を行う。				

様式2-2 地区の概要

宮守まちなか再生地区(岩手県遠野市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 自然豊かで快適な住環境形成と地域資源を活用した魅力あふれるまちづくり	地域内人口の減少率	単位: %/年	-1.25 H25	-0.16 R1	-2.49 R1
[目標1]自然あふれる快適な住環境整備による人口定住の促進	銀河ステーションSLプラザの利用者数	単位: 人/年	62,480 H25	68,900 R1	62,045 R1
[目標2]地域資源を活用した観光と交流のまちづくりによる地域の活性化					

宮守まちなか再生地区都市再生整備計画事業(岩手県遠野市)



◆事業概要: 自然あふれる快適な住環境整備による人口定住の促進、地域資源を活用した観光と交流のまちづくりによる地域の活性化を図るため、「銀河ステーションSLプラザ」、「観光情報案内板」、「めがね橋ライトアップ用照明」などを整備することにより、自然豊かで快適な住環境の形成と地域資源を活用した魅力あふれるまちづくりを推進する。

◆事業主体: 岩手県遠野市

◆面積: 182.0ha

◆交付期間: 平成27年度～令和元年度

◆全体事業費: 158.0百万円

◆交付対象事業費: 158.0百万円(国費: 63.2百万円)

◆国費率: 40.0%

まちの課題の変化	<p>■達成されたこと(課題の改善状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域内人口は減少傾向にあるが、地域住民主体によるイベントが増加・定着し、住民同士の結びつきが強化されておりコミュニティの維持につながった。 ○めがね橋ライトアップ用照明整備や銀河ステーションSLプラザの改修により、観光客や施設利用者が増加し地域経済の活性化に寄与できた。 ○観光情報案内板の整備により、魅力ある地域資源の存在を知らしめるとともに、めがね橋ライトアップ用照明整備や銀河ステーションSLプラザの改修により、地域資源を活用したまちづくりが展開できた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>■今後のまちづくり方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民団体などに対するまちづくり活動への支援事業 ○各種媒体による地域資源やまちづくりイベントなどの情報発信 ○子育て支援住宅の建設 ○保育園・幼稚園の整備 ○移住相談会などでのPR

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設	宮守駅前広場	9	A=1,150㎡	-	-	事業の削除 JR釜石線宮守駅舎を取り壊した跡地を舗装する計画を今計画により進めていたが、JR東日本盛岡支社が、舗装工事まで施工した事により、関連事業への位置付けとした。	影響なし		
地域生活基盤施設	宮守駅、銀河ステーションSLプラザ他	20	10箇所	14	10箇所	情報板の設置場所や案内表示内容を精査した事による。	影響なし		●
高質空間形成施設	宮守駅前トイレ	14	A=11.7㎡	7	A=11.7㎡	事業費の精査	影響なし	●	
既存建造物活用事業 高次問施設	銀河ステーションSLプラザ他	192	A=510.5㎡	117	A=510.5㎡	事業費の精査	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	めがね橋ライトアップ用照明整備		なし	15	めがね橋ライトアップ用照明整備	「事業の追加」 全国的に知名度があり、恋人の聖地にも選ばれている市の観光資源であるJR釜石線の「めがね橋」をライトアップしている照明設備を整備することで、今計画で整備した銀河ステーションSLプラザへの集客力を高め、地域経済の振興と地域の活性化を図る。	影響あり 集客力の向上、地域経済の振興と地域の活性化に寄与する。	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	5	事業効果分析業務委託	5	事業効果分析業務委託		影響なし		●
まちづくり活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
宮守子育て支援住宅整備事業		旧JA宮守支店跡地周辺	676	676	H28～H30	H28～H30	0%	
市道あら町2号線道路改良事業		市道あらまち2号線	14	14	H28	H28	0%	
宮守保育所・幼稚園整備事業		旧JA宮守支店跡地周辺	116	118	H29～R1	H29～R1	0%	
めがね橋周辺賑わい創出事業		めがね橋周辺	5	5	H27～R1	H27～R1	100%	
宮守駅前広場整備		JR釜石線宮守駅前	—	—	—	H27	100%	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし	
指標1	地域内人口の減少率	% / 年	関連行政区域内(宮守第4・5区))における事業実施前5年間の人口減少率と実施5年間の減少率	-	-	-1.25	H25	-0.16	R1	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	-2.49	事後評価 ×		●
指標2	銀河ステーションSLプラザの利用者数	人 / 年	銀河ステーションSLプラザ内の資料スペース、めがねばし直売所の利用者数	-	-	62,480	H25	68,900	R1	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	62,045	事後評価 △		
指標3										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		
指標4										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	住環境整備を行うことで定住促進により地域内人口の減少抑制を図ることを目標としていたが、高齢化率の進行、県立遠野情報ビジネス高校閉校などの影響が大きく、より減少率が進行している。また、「宮守子育て支援住宅」の整備が遅れ、当初想定した居住が見込めず、目標達成に至らなかった。	目標値は関連事業である「宮守子育て支援住宅」の居住者を見込んでおり、本事業(基幹事業・提案事業)による効果としての目標値としては適切でなかった可能性もある。
指標2	銀河ステーションSLプラザの利用者数は近年下落傾向であり、事業を実施しなかった場合はさらに下落することが予想され、事業を実施しなかった場合の推計値は平成31年度(令和元年度)で57,587人/年と予想される。そうした中、評価年度の平成31年度(令和元年度)の実績値は62,045人/年であり、当該事業の実施が下落傾向を是正することにつながったと考えられ、目標値(68,900人/年)は未達成であるが、一定の事業効果はあったものと考察できる。	平成29年度は66,749人/年、平成30年度は66,536人/年であり、目標値に近づきつつあったが、平成31年3月の釜石自動車道の全線開通による交通量の減少の影響と推察され、外的要因を見込んだ目標値の設定が必要であった可能性もある。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)		
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	道の駅みやもりの売上額	百万円	めがねばし直売組合による、レジ売り上げ額の集計値	56.2	H22	46.8	H25	モニタリング		44.0	釜石自動車道の開通による交通量減少等によるマイナス影響はあるものの、銀河ステーションSLプラザの整備等による効果は確実にあったと思われ、道の駅みやもりの売上額により地域経済の回復を説明する。	指標2を補完して、地域経済の回復を説明する。
								事後評価	確定 ● 見込み			
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・銀河ステーションSLプラザの整備、めがねばしライトアップ照明整備等により、地域住民や事業者のまちづくりへの意識が高まり、主体的かつ継続的なイベントが実施されている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 町民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市民団体「めがね橋周辺環境整備検討会」との意見交換	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】計4回 【実施時期】平成25年～平成28年(H25.11月、H27.2月、H27.3月、H28.8月) 【実施結果】持続的なまちづくり組織として活動しており、本業務の実施にあたり、意見交換を行ったことから、まちづくりに関する環境整備への関心がより高まるとともに、地元が主体となったイベントの開催の増加につながった。	・今後も市民の意向を取り入れたまちづくり・施設活用を継続的に実施する。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
○事業終了後の継続的なまちづくり まちづくりは終わりのない市民運動そのものであることから、関係機関のみならず地域住民、市外の遠野ファンを巻き込み、PDCAの検証を常に意識しながら目標達成に取組む。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	①めがね橋の手前にある河川敷の簡易ステージを活用した「めがね橋ライブ」の継続的な開催(H28,H30,R1実施,継続開催予定) ②道の駅みやもりや周辺の商店街を会場にした「小さなひなまつり」の継続的な開催((H29,H30,R2予定,継続開催予定)	①めがね橋ライブ実行委員会:宮守町の若手有志による「和太鼓集団和會(なごみかい)」メンバーが中心とり地域活性化イベントを実施 ②遠野商工会:地域事業者による団体、地域活性化への取り組みを実施	・地域住民や事業者の主体的なまちづくり活動等の後方支援を行う。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討	環境整備部建設課、まちづくり推進課 子育て応援部 こども政策課	令和2年3月6日	宮守総合支所

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他数値指標1							
指標名		道の駅みやもりの売上額							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設(情報版)	○	道の駅みやもりの売上額は近年下落傾向であり、事業を実施しなかった場合はさらに下落することが予想され、事業を実施しなかった場合の推計値は平成31年度(令和元年度)で30.4百万円/年と予想される。そうした中、評価年度の平成31年度(令和元年度)の確定値は44.0百万円/年であり、当該事業の実施が下落傾向を是正し、地域経済を回復することにつながったと考えられ、一定の事業効果はあったものと考察できる。						
	高質空間形成施設(宮守駅前トイ)	—							
	既存建造物活用事業 高質空間形成施設(銀河ステーションSLP)	○							
提案事業	地域創造支援事業(めがね橋ライトアップ用照明整備)	○							
	事業活用調査(事業効果分析調査)	—							
関連事業	宮守子育て支援住宅整備事業	—							
	市道あら町2号線道路改良事業	—							
	宮守保育所・幼稚園整備事業	—							
	めがね橋周辺賑わい創出事業	○							
	宮守駅前広場整備	—							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域コミュニティの活性化を図りながら、めがね橋など地域資源の情報発信、地域主体のイベント開催を支援することで、観光客誘致を促進し、地域経済の活性化を図る。				
-------	---	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2								
指標名		地域内人口の減少率			銀河ステーションSLプラザの利用者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設(情報版)	—	高齢化率の進行、 県立遠野情報ビジネス高校閉校などの影響が大きく、より減少率が進行した。また、「宮守子育て支援住宅」の整備が遅れ、当初想定した居住が見込めず、目標達成に至らなかった。 なお、目標値は関連事業である「宮守子育て支援住宅」の居住者を見込んでおり、本事業(基幹事業・提案事業)による効果としての目標値としては適切でなかった可能性もある。	I	△	銀河ステーションSLプラザの利用者数は近年下落傾向であり、事業を実施しなかった場合はさらに下落することが予想され、事業を実施しなかった場合の推計値は平成31年度(令和元年度)で57,587人/年と予想される。 そうした中、評価年度の平成31年度(令和元年度)の実績値は62,045人/年であり、当該事業の実施が下落傾向を是正することにつながったと考えられ、目標値(68,900人/年)は未達成であるが、一定の事業効果はあったものと考察できる。 なお、平成29年度66,749人/年、平成30年度は66,536人/年であり、目標値に近づきつつあったが、平成31年3月の釜石自動車道の全線開通による交通量の減少の影響と推察され、外的要因を見込んだ目標値の設定が必要であった可能性もある。	I						
	高質空間形成施設(宮守駅前トイレ)	—			△								
	既存建造物活用事業 高質空間形成施設(銀河ステーションSLプラザ)	—			△								
提案事業	地域創造支援事業(めがね橋ライトアップ用照明整備)	—	また、本事業(基幹事業・提案事業)が必ずしも地域内人口の減少率の抑制に寄与するものではないことから、指標設定としては適切でなかった可能性もある。	I	△								
	事業活用調査(事業効果分析調査)	—			—								
関連事業	宮守子育て支援住宅整備事業	×	人口の減少率の抑制に寄与するものではないことから、指標設定としては適切でなかった可能性もある。		—								
	市道あら町2号線道路改良事業	—			—								
	宮守保育所・幼稚園整備事業	—			—								
	めがね橋周辺賑わい創出事業	—			△								
	宮守駅前広場整備	—			—								

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>快適な住環境の実現を図るため、「宮守子育て支援住宅」の整備に併せて、宮守幼稚園・保育所や市道あら町線の改良を行うことで、子育て世代の住環境整備を行い地域内人口の減少を抑制する。</p>	<p>遠野ファンなどの来訪者を呼び込む魅力的なイベント開催支援、企画展示などの事業を実施する。</p>	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討	環境整備部建設課、まちづくり推進課 子育て応援部 こども政策課	令和2年3月6日	宮守総合支所

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
少子高齢化に伴う地域内人口の減少による地域コミュニティの維持	地域内人口は減少傾向にあるが、地域住民主体によるイベントが増加・定着し住民同士の結びつきが強化されておりコミュニティの維持につながった。	人口減少の抑制	なし
保育所や幼稚園、小学校に隣接した民間経営賃貸住宅が乏しく、子育て世代の住環境整備	なし	子育て世代の住環境整備	なし
地域内を東西に横断する国道283号の交通量が減少に対応した地域経済の活性化	めがね橋ライトアップ用照明整備や銀河ステーションSLプラザの改修により、観光客や施設利用者が増加し地域経済の活性化に寄与できた。	なし	なし
地域内に点在する地域資源の魅力のまちづくりへの活用	観光情報案内板の整備により、魅力ある地域資源の存在を知らしめるとともに、めがね橋ライトアップ用照明整備や銀河ステーションSLプラザの改修により、地域資源を活用したまちづくりが展開できた。	なし	なし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地域住民が交流できる機会の創出	持続的なまちづくり活動の継続支援。	●市民団体などに対するまちづくり活動への支援事業
	各種イベントの充実と魅力ある施設利用	遠野ファンなどの来訪者を呼び込む魅力的なイベント開催支援、企画展示などの事業の実施。	
	地域資源の情報発信、PR	地域資源の魅力の発掘、各種媒体による情報発信	●市ホームページ、広報での情報発信 ●ラジオ・テレビ・SNSによる情報発信 ●各種イベントなどでのPR

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	居住人口の増加	子育て世代などが居住できる住環境整備	●子育て支援住宅の建設 ●保育園・幼稚園の整備 ●移住相談会などでのPR
	・未達成の目標を達成するための改善策		
	・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	地域内人口の減少率	% / 年	-1.25	H25	-0.16	R1	確定	●	-2.5	×	あり	●	→	関連事業完了時	関連行政区域内(宮守第4・5区))における事業実施前5年間の人口減少率と実施及び実施後の減少率を確定値とする。	子育て支援住宅整備後、実施する。
							見込み				なし					
指標2	銀河ステーションSLプラザの利用者数	人 / 年	62,480	H25	68,900	R1	確定	●	62,045	△	あり	●	→			
							見込み				なし					
その他の数値指標1	道の駅みやもりの売上額	百万円	46.8	H25	/		確定	●	44.0	/	/	/	→			
その他の数値指標2							確定						→			
							見込み									
その他の数値指標3							確定						→			
							見込み									

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・指標に影響を与える外部要因を考慮したうえで、指標を設定する必要がある。 ・事業の実施状況に応じ、それに応じ指標を適切に見直す必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・外部要因の影響が大きく目標達成に至らなかった。 ・指標に影響がある事業が実施・完了できなかった。 	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・目標を定量化する指標と事業の関係性を十分検証し設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を定量化する指標と事業の関係性が整合しておらず適切な効果計測ができなかった。 	
町民参加 ・情報公開	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体との意見交換によりまちづくりに関する環境整備への関心がより高まるとともに、地元が主体となったイベントの開催の増加につながった。 	
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗状況を把握し、円滑な事業実施を図る。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	令和2年4月13日～4月27日	令和2年4月13日～4月27日	宮守総合支所及び環境整備部まちづくり推進課を受付窓口とし、意見書・電子メール・ファックスによる意見を受け付ける。	宮守総合支所及び環境整備部まちづくり推進課
広報掲載・回覧・個別配布	なし	なし	なし		
説明会・ワークショップ	なし	なし	なし		
その他	宮守総合支所及び環境整備部まちづくり推進課の窓口で閲覧	令和2年4月13日～4月27日	令和2年4月13日～4月27日		

町民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	都市計画審議会長 佐々木 栄洋	令和2年7月3日	宮守総合支所及び環境整備部まちづくり推進課	独自に設置	独自に設置
その他の委員	前宮守地域づくり連絡協議会長 阿部 正一 下郷地区自治会長 千葉 孝造 宮守地域づくり連絡協議会長 八重樫 正昇 遠野「西の玄関口みやもり」検討会長 菊地 邦				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が実施されたことが確認された。
	成果の評価	成果の評価としては妥当である。 ただし、指標1については、「目標値が適切でなかった」としているが、事業効果として示した事業を実施しなかった場合の予測値などは、人口減少の背景なども考慮した上で、もう少し丁寧に掘り下げる必要があったと考える。
	実施過程の評価	特になし。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理の手続きについては妥当であると確認された。 ただし、成果の評価などもう少し掘り下げた議論が必要であったと考える。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表については妥当であると確認された。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事業評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	各種イベントについては、地域の人とも交えながら盛り上げていく必要がある。 西の玄関口として、東和インター、沿岸部からの集客を図るべく、戦略・ストーリーを立てて取り組むことが必要である。
	フォローアップ	既存施設の個々の魅力アップと核施設の有機的なネットワーク化などは、今後のまちづくりにおいて重要であり、継続的に議論を重ね、実施案としてまで収斂させるようなフォローアップを期待したい。
	その他	来訪者を呼び込むために、道路案内板やサインの整備・充実が望まれることから、地元地域、関係部局と協議し検討していくことが必要と考える。 「遠野高等学校情報ビジネス高跡地」の活用について、情報発信し検討を進める事が必要と考える。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策については妥当であると確認された。
その他	事後評価の手続きは問題無い。 宮守の中心市街市街地の活性化を図るためには、産・学・官が連携して取り組むことが必要である。 銀河の森総合運動公園は多くの人を集めているが、商店・飲食店等も不足している。次の課題としてとらえ産業振興の面からも検討が必要と考える。 本事業で整備した「宮守駅前トイレ」は、地元自治会が管理しているが、美しさが保たれ、利用者からは感謝の言葉をいただいている。このような取り組みをもっと市民に共有することが必要と考える。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考してください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし		

有識者の意見	
--------	--